

<PGI 学術講演抄録> ※無断転載を禁じます

## 『基本治療がもたらす総合歯科臨床』

東京都品川区 新井俊樹

現在では、超高齢社会への対応、健康寿命の延伸に対する歯科への期待が増し歯科医療の役割が拡大してきています。そのため、歯科のあらゆる分野での基本治療を習得することは難しくなっています。しかし、開業医の役目である「かかりつけ歯科医」としては、広く浅くではなく、狭く深くでもない、出来るだけ広くできるだけ深い基本知識と基本技術を身に付けることが理想だと考えています。少なくとも歯を保存するために必要な基本治療はしっかり身に付けたいものです。なぜなら、歯の保存が、歯科医の最重要課題でなければ歯科医療の存在価値は低くなってしまおうと思うからです。歯を抜きたい患者さんは少なく歯を守りたい患者さんが多いのに、抜歯の判定は患者さんの願いより術者の判断で決まることが多いようです。それは歯を抜くことはたやすいですが歯の保存は容易なことではないからでしょう。しかし、歯を抜くことで病態が複雑になり結果として経過不良例を生むこととなります。さらに本来不必要な治療に迫られることにもなります。歯の保存を徹底することで欠損形態を単純化し崩壊を遅らせることが出来るのです。

開業医は、プライマリ・ケアを担っているため、来院された時点の口腔内を複雑にしないことが要求されます。そのためには保存治療に必要な総合的な知識と技術が不可欠です。そのうえ、総合診断能力が身に付けば余計な検査や治療をせずに最も害の少ない有効な治療を選択できると考えています。総合診断能力は総合的技術と長期経過経験によって身に付くと感じています。また、総合的診断が出来れば、術後のトラブルに対しても的確に原因を特定し最も負担の少ないリカバリーが出来るのではないかと考えています。

そこで、本講演では、とかく目を奪われがちな最新器機やインプラント・再生療法よりも従来の基本治療が歯を守るためにいかに大切かということと、基本治療をベースにした総合診断・総合治療について症例を通して述べてみたいと思います。